



芝浦だより

背中を見て育つ～背中を見せて育てる～

副校長 佐藤 悠

子供たちの元気な姿が学校に戻ってきました。この夏も東京の猛暑日数記録を更新するほどの厳しい暑さとなりましたが、子供たちは有意義な夏休みを送ったことと思います。

夏休み初日には、本校 PTA 主催で「WaterFestival(水フェス)」が開催されました。子供たちは、貴重な経験・体験を得ることができたことと思います。ご協力いただきました保護者・地域の皆様、ありがとうございました。

「親の背中を見て子は育つ」ということわざがあります。子供は親の姿を見て、自ずと学び育つ、という意味です。親子のしぐさや話し方などが似ているのは、まさに親の姿を見て子供が学んでいる証です。

私が学齢期の頃、母が書く担任宛の連絡帳や手紙の文面は必ず「いつもお世話になっております。」から始まりました。私自身が親となり我が子の連絡帳等を書く際も、必ず「いつもお世話になっております。」から書き始めました。「こう書くのが礼儀です。」などと一言も教えられたことはありません。母がそうする姿を自然と学んでいたのだと思います。靴を脱ぐ時は、きちんと揃え端に寄せる。この習慣も、常に玄関の履物をきちんと揃えていた母の姿を見て学んだことの一つです。小学生だった我が子が、お友達の家にお邪魔した際に、「きちんと靴を揃えて上がってくるのは〇〇ちゃんだけよ。きちんとしつけられていて立派ね。」とほめていただいたことがありました。私は我が子に「靴をきちんと揃えなさい。」と言ったことはありません。我が子も親である私の姿を見て学んでいたのでしょう。

子供を育て、しつけるために私たち大人は毎日たくさんの言葉を子供たちに投げかけています。言うことを聞かないと厳しく言葉を荒らげることもあるかと思います。もちろん、言葉で理屈とともに教えなくてはならないこともたくさんあります。しかし、言葉の力以上に影響力があるのは、子供が日々目にしている大人の行動なのかもしれません。

今の時代、画像・映像等の視覚情報が子供たちの周りに溢れています。そして、そこに写る大人の姿は必ずしも子供たちの健全な成長に望ましいものばかりではありません。だからこそ、身近な大人である我々親や教員が、人として正しい姿、行動を見せていかななくてはならないと思います。

子供たちは見えています。そのことを肝に銘じ、学校生活を通して子供たちが正しく学び成長できるように、全教職員でしっかりと背中を見せていきます。そして、学校でも家庭でも、地域でも同じ背中を見せることができるように、一層の連携を図って参りたいと思います。今学期も本校へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。